様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　７ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｋ０２０３５

研究課題名（和文）現代米国における白人至上主義を中心とした憎悪団体の民族誌的考察

研究課題名（英文）An Ethnographic Examination of White Supremacy and Other Hate Groups in the Contemporary United States

研究代表者
渡辺　靖（WATANABE, Yasushi）

慶應義塾大学・環境情報学部（藤沢）・教授

研究者番号：７０３１７３１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：２０２０年５月に米ミネソタ州ミネアポリスで黒人男性ジョージ・フロイド氏が白人警察に圧迫死させられる事件が起き、それを契機に、ブラック・ライブズ・マター（BLM）運動が米国内外で広がった。本研究は米国の白人ナショナリズムの歴史と現状について、主に実際の関係者へのヒアリングを通して、解明することを試みた。その成果は『白人ナショナリズム』（中公新書）として２０２０年５月に刊行した。ちょうどジョージ・フロイド事件と重なったこともあり、多くのメディアなどで取り上げられた。少しでも研究成果が社会に還元できたのではと思っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は米国の白人ナショナリズムの歴史と現状について、主に実際の関係者へのヒアリングを通して、解明することを試みた。その成果は『白人ナショナリズム』（中公新書）として２０２０年５月に刊行した。ちょうどジョージ・フロイド事件（２０２０年５月）と重なったこともあり、多くのメディアなどで取り上げられた。少しでも研究成果が社会に還元できたのではと思っている。また、白人ナショナリストへのフィールドワーク自体、世界的にも数少ない。加えて、アメリカのみならず、ヨーロッパやオーストラリアなどでも共通した現象であることから、人種主義やナショナリズムに関する理論研究にも貢献できたと思う。

研究成果の概要（英文）：In May 2020, a black man, George Floyd, was crushed to death by white police in Minneapolis, Minnesota, which triggered the Black Lives Matter (BLM) movement spread throughout the United States and abroad. This study attempted to elucidate the history and current state of white nationalism in the U.S., mainly through interviews with actual people involved. The results were published in May 2020 as "White Nationalism" (Chuko Shinsho). The book coincided with the George Floyd Affair and was covered by many media outlets. I hope that I was able to give back to society, even if only a little, the results of my research.

研究分野：文化人類学、アメリカ研究

キーワード：白人　ナショナリズム　アメリカ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究ではアメリカを中心とする白人ナショナリズム(白人至上主義)について扱った。近年、米国では(「反移民系」「ホロコースト否定系」「反イスラム系」「新南部連合系」などを 含む広義の)白人ナショナリスト系団体が急増しており、ヘイトクライムが深刻化している(例えば、2017 年 8 月のシャーロッツビルでの衝突事件、同年 10 月のピッツバーグでのシナゴーグ乱射事件など)。

２．研究の目的

こうしたテーマについてはメディアで多く取り上げられているが、センセーショナルになりがちである。その一方で、アカデミズムの分野では善悪の価値判断が前提になってしまい、そうした行動に走る者たちの内面的な意味世界や背景について内在的に理解する試みが少ない。本研究は実際の当事者へのフィールドワークによって、そうしたジャーナリズムとアカデミズムの橋渡しをする目的もある。

３．研究の方法

アメリカ各地の白人ナショナリストの集会を訪れ、当事者へのインタビューを重ねる一方で、歴史的な背景については史料をもとに肉付けするアプローチをとった。フイールドワークに関しては倫理的な責任もあるため、アメリカ人類学会で定められているコードに従って、相手の活動を利することのないよう細心の注意を払った。

４．研究成果

確かに排外主義的な言動を繰り返すトランプ大統領の誕生という政治的要因もある が、白人人口の減少、経済格差の拡大、マイノリティ優遇などの社会的要因、さらにはグローバル化の進展に伴う産業構造の変化、雇用の流動化、移民の流入、国家主権の弱体化など構造的要因もある。

反移民、反多文化主義、経済ナショナリズム、不干渉主義、反グローバリズムなどを核とするトランプ氏の「米国第一主義」は白人ナショナリストに広く共有されている世界観(ペイリオコン=原保守主義)と呼応する。もちろん、トランプ氏は白人ナショナリストを明示的に支持することはしないが、従来の大統領に比べると、彼らに対して最も寛容である(著名な黒人作家タナハシ・コーツは「米国初の白人大統領」と称している)。トランプ政権、そして今後の米国を理解する上で白人ナショナリズムの考察は有益な視座を提供してくれるよう。

同時に、白人ナショナリズムは米国だけの問題ではない。ヨーロッパをはじめ、カナダ、ロシア、オーストラリア、ニュージーランドなど「西洋文明」圏の各地で台頭しており、一部は過激化している(例えば、今年 3 月のクライストチャーチでのモスク乱射事件など)。過激派という とイスラムのジハード主義者を想起しがちだが、白人過激派の動向もグローバルセキュリティ上の脅威となっている。白人の没落は世界史上、初の現象でもある。米国の白人ナショナリ

ストにはプーチン大統領(ロシア)やオルバン首相(ハンガリー)に対して好感を抱く者も多く、ヨーロッパ極右政党・団体とのネットワーク構築にも積極的だ。

ちなみに米政治を整理する際によく用いられる「社会的自由」と「経済的自由」を軸とする座標図(ノーランチャートなど)によると、白人ナショナリズムは<権威主義>の一種として、< リバタリアニズム>の対極に位置付けられる(リバタリアニズムはグローバル化、自由貿易、移民、多様性を支持する点で彼らとは立場を異にする)。いわば本研究は拙著『リバタリアニズム』とは正反対の象限から「保守」と「リベラル」を再考し、米国理解のウイングを広げようとするものである。

白人ナショナリストの一部(いわゆる「ホロコースト否定系」)は「グルーバル資本主義＝ユダヤ人」と捉えているが、「陰謀論」や「ディープフェイク」とどう向き合うかも重大な課題である。さらにはリベラル国際秩序の根幹にあった啓蒙主義的な自由や科学的な知を否定する「暗黒啓蒙(dark enlightenment、新反動主義、新ファシズム)」が負のポピュリズムとして訴求力を増している。白人ナショナリストの主張には優生学的・疑似科学的な面が散見されるが、その点には文化人類学者などから強い反論もある。こうした思想的側面についても考察を加えた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計1件

１．著者名 渡辺靖	４．発行年 2020年
２．出版社 中央公論新社	５．総ページ数 212
３．書名 白人ナショナリズム	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関